

回り道

その日は朝から倦怠感が酷く、体温測定したら三十八度だった。またか、と思った。

私は妊娠九か月。結婚して二回流産し、三回目の今回も不正出血や悪阻など、体調不良が続いた。心配で病院受診することにした。

私は車を持っておらず、バス停留所も歩いていくには遠かった。その為、新谷タクシーをお願いした。すぐ迎えに来られ、運転手さんは「一番近い道を通っていくからね。」と言われた。丁寧な運転で病院に到着できた。

受診では赤ちゃんの異常もなく、ほっと一安心した。点滴で随分楽になり、抗生剤の処方を受け取った。再度新谷タクシーに帰りのご連絡をした。

思ったより迎えのタクシーは早かった。その時、「帰り道は来た道と違って大丈夫？」と聞かれた。私は「お任せします。」と答えた。

タクシーは病院を出て、割とすぐ左折した。裏道だろうか。結婚してこの町に来てまだ一年半。通ったことのない道だった。春の霞んだ空が窓から見えた。いつの間に春が来たのだろう。妊娠してから一日一日を数えるように過ごしてきたのに、突然あつという間に今になったような錯覚を覚えた。

その時、私の目の前に黄色い絨毯が飛び込んできた。それは川のそばに一面に広がっていた。一斉に太陽の方に顔を向けて勢いよくキラキラ咲いている。菜の花だ。菜の花畑だ。その美しさに私は思わず感嘆の声を上げた。

運転手さんは「五郎の菜の花畑よ。今、最高にきれいやけんね。少しでも気晴らしになったらええと思って。」そしてメーターを切り私に言った。「朝、病院まで一番近い距離で走ったから、料金はわかる。帰りは少しだけ距離が長くなるけど、自分で選んだ道だから。朝の金額でお願いします。」

あれから二十二年。春になると心の写メで切り取った菜の花の風景と、広くふかふかの心で接して下さった運転手さんのことを昨日の事のように、鮮やかに思い出す。

